



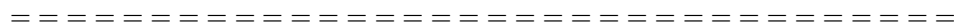
地域日本語支援ニュース こだま 第 355 号

2019.2.28



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■日本で育つ■

東京在住の長田さんは 37 年前に 1 歳半でベトナムから難民として来日しました。現在子育てしながら、フリーランスでベトナム語通訳・翻訳者にも就いています。今回は、主として関わる司法通訳の仕事について、書いていただきました。(注：こだま第 349 号「ルーツ」には長田さんの来日から現在に至るまでを書いていただいています)

.....

通訳人として

長田 恵美 (おさだ さとみ)

私はベトナム語の通訳・翻訳、中でも主に司法通訳をしています。司法通訳も、大まかには捜査通訳(警察や検察等捜査機関での通訳等)・法廷通訳(裁判時の通訳等)・弁護通訳(弁護人側の通訳等)の 3 つに分けることができ、私は主に捜査通訳をやっています。

この世界に正式に入ってからおよそ 4 年になりますが、平均すると年間 300 件以上、通訳・翻訳に関わってきました。

捜査機関の通訳をする際に求められるのは、話の内容をできるだけ忠実にそのまま訳すことです。相手が質問にかみ合わない返答をしていた場合も、その返答をそのまま訳します。勝手に「違う、そんなことを聞いているのではない。」などと言ってはけません。相手がどのように回答するのも、質問者側に

としては重要なポイントだからです。かみ合わない回答をした理由が、嘘をつくために意図したのかもしれないし、違うことを考えていたために質問をよく聞いていなかったからかもしれません。そこは通訳人の判断ではなく、質問者側が判断することで、通訳人としてやるべきは、できるだけ忠実に、相手の話を通訳することです。

この「できるだけ忠実に」を貫くのがとても神経を使うところです。

一つは、人称の問題です。日本語の人称も場面や立場で複数の表現がありますが、ベトナム語ではそれ以上に、話し手と聞き手の性別、年齢、関係等によって、使用する人称の組み合わせにバラエティが出てくるため、訳す時もその点を気にかけなければいけません。

二つ目に、時制の問題をあげることができます。例えば「行った」という日本語ですが、日本語ではそれだけでその動作が既に終わったことだと分かりますが、ベトナム語では「行く」という単語は「行く」しかないため、「昨日行く」などと、それにあたる意味の単語を前後に追加して表現する必要があります。

また、言葉の文化に関わるこんなこともありました。

取調官：あなたは誰と住んでいますか？

私：（ベトナム語）あなたは誰と住んでいますか？

ベトナム人：（ベトナム語）“妻”と住んでいます。

私：（日本語）“妻”と住んでいます。

取調官：妻？あなたは以前独身と言っていたじゃないですか。嘘をついたのですか？

私：（上記をベトナム語訳に）

ベトナム人：（ベトナム語）違います！僕は独身です！僕たちベトナム人の若者世代では、恋人の事を“夫や妻”と呼ぶことがあるのです。だから嘘はついていません！

私：（上記を日本語訳に）

この時、手元の捜査情報と異なることをベトナム人の彼が述べたため、取調官は嘘をつかれたのかと、一瞬熱くなってしまいましたが、ベトナム人の彼が察しの良い人だったため、すぐになぜ自分が恋人の事を“妻”と言ったのかを説明してくれました。そのおかげで、それ以上の誤解は生まれずにすみ、ホッと

したのを覚えています。万が一このまま誤解が解けなかったりすると、私から取調官に発言する許可をもらった上で、その文化等について説明をします。

これらはあくまで一例で、通訳・翻訳をする際に、訳すのに苦労したり迷ったりする場面はたくさんあります。100%正確に訳せるよう努力はしますが、実際のところ、上で述べたような言葉や文化の違いがある他、その日の体調面や精神面によっても、訳の精度は変わってきます。それでも、自分の訳し方一つで相手の人生が変わってしまうかもしれない、そんな責任感を心に留めながら、できる限り内容に忠実な訳をしようと、これからも心がけていきたいです。

ベトナム人の入国者数が増えている昨今、当然、犯罪に関わってしまうベトナム人の数も増えてしまいます。罪を犯すベトナム人に接する機会も増えたため、捜査機関関係者の中には、どうしても、ベトナム人に対して悪い印象を持ってしまう方たちもいます。そういう方たちに、私のようにまじめに頑張っているベトナム人もいるのだと知ってほしい、私と接することで少しでもベトナム人に対して好印象を抱いてほしい、おこがましいですが、そんな想いも抱きながら、この仕事を続けていこうと思っています。
